



明野歴史民俗資料館では、第13回企画展「人生儀礼～誕生・結婚・葬送～」を8月6日から9月30日まで開催します。ぜひ、お越しください。(内海)

人生儀礼～誕生・結婚・葬送～

人が一生の中で通過する儀礼を、「人生儀礼」や「通過儀礼」のように呼びます。「人生儀礼」は、人が、次の段階に進む時に通過する儀礼で、さまざまな信仰や呪術的観念により成り立っています。「人生儀礼」は昭和30～40年代に大きく変化したと言われます。

本企画展では、特に「誕生」・「結婚」・「葬送」に焦点をあて、北杜市内の各町の民俗を中心に、その紹介、民具の展示をします。

今回のかわら版では、「誕生」についてお話しします。

妊娠すると、まず安産祈願などで神社を訪れますが、北杜市で子授けや安産祈願の神様として有名なのは、須玉町江草にある勝手子安神社です(写真1)。須玉町内だけでなく、現在の北杜市内外から多く参拝者がありました。毎年4月に行われる神社の祭礼は、お札を貰いに来る、各地の子安講の代参者(講の代表として参拝に来る人)で賑わったそうです。



写真1 勝手子安神社

妊娠5ヶ月目の戌の日(犬はお産が軽いから)には、腹帯を締めますが、その腹帯は妊婦の実家から贈られます。出産前後には、腹帯や餅など、妊産婦の実家から贈られてくるものが多いですが、それは、実家から贈られる布や食べ物は、妊産婦や赤ん坊に力をつけると信じられているためです。

赤ん坊が誕生すると、「ウブメシ」を炊き、赤ん坊に産着を着せ、2～3日経つと産婦の実家から「チカラモチ」と呼ばれる餅が贈られ、産婦が食べるほか、お産見舞い「ボコミ」に来た近隣の人にも振る舞います。



その後、多くの家ではお七夜に命名をします。その他、お七夜には、「便所の神様」にお参りをします。便所には、出産に深く関わる「便所の神様(美人の神様)」がいるとされ、便所にお参りに行き、臍の緒を、米や扇子などと共に便所にお供えしました。そして、赤ん坊に便所をまたがせます。お七夜のお祝いが過ぎると、生後約1ヶ月にはお宮参り、100日目にはお食い初めをします。

このようにして、様々な誕生にまつわる「人生儀礼」を経ることにより、赤ん坊はその家の子となっていくます。

写真右上：命名札
(中山梅三氏撮影 山梨日日新聞社所蔵昭和30年頃 山梨市牧丘町)
写真左：お宮参り(『須玉町史』所収)
写真右：お食い初め



第13回企画展「人生儀礼～誕生・結婚・葬送～」は、開催期間が短めとなっております。どうぞお見逃しなく！